

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 6 年 4 月 16 日(2024.4.16)

【公開番号】特開 2022-190251(P2022-190251A)
【公開日】令和 4 年 12 月 26 日(2022.12.26)
【年通号数】公開公報(特許)2022-238
【出願番号】特願 2021-98494(P2021-98494)
【国際特許分類】
A 6 3 F 7/02(2006.01)
【F I】
A 6 3 F 7/02 3 1 5 A

10

【手続補正書】
【提出日】令和 6 年 4 月 8 日(2024.4.8)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】
【請求項 1】

第 1 態様と第 2 態様とに変化可能である可動役物と、
前記可動役物に設けられ、発光した第 1 状態と第 2 状態とに発光状態を変化可能である
第 1 発光領域と、
前記可動役物と異なる複数の部位のうちの少なくとも一つに設けられ、発光した第 1 状
態と第 2 状態とに発光状態を変化可能である第 2 発光領域と、
所定の変動演出を実行可能である表示手段と、を備え、
前記第 2 発光領域を複数有し、
前記変動演出において、前記表示手段の画面に表示される第 1 画像と、前記第 1 画像が
変化して画面に表示される第 2 画像とに変化可能であり、
前記第 1 画像及び / 又は前記第 2 画像は、フレーム更新タイミングに合わせて変化可能
であり、
前記第 2 画像に変化する前記変動演出が行われるとき、前記第 1 発光領域と前記第 2 発
光領域のうちの少なくとも一つとを連係して前記第 2 状態に変化する発光演出が実行可能
であり、
前記表示手段の画面に、前記第 1 画像と共に第 3 画像を表示可能であり、
前記第 1 画像を前記第 2 画像に変化したときに視認し易さを変化させる一方、前記第 1
画像および前記第 2 画像のいずれであっても、前記第 3 画像の視認し易さを変化させない
ように表示可能であり、
前記第 1 画像から前記第 2 画像に変化するまでのフレーム数よりも、前記第 2 画像から
前記第 1 画像に変化するまでのフレーム数の方が少ないことを特徴とする遊技機。

30

40

【手続補正 2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 0 7
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0 0 0 7】

上記課題を解決するため、本発明によれば、第 1 態様(待機位置で停止)と第 2 態様(
演出動作)とに変化可能である可動役物(可動部材 7 3、7 4)と、前記可動役物に設け

50

られ、発光した第 1 状態（演出発光状態）と第 2 状態（例えば消灯）とに発光状態を変化可能である第 1 発光領域（HK 1）と、前記可動役物と異なる複数の部位のうちの少なくとも一つに設けられ、発光した第 1 状態（演出発光状態）と第 2 状態（例えば消灯）とに発光状態を変化可能である第 2 発光領域（HK 2）と、所定の変動演出を実行可能である表示手段（画像表示装置）と、を備え、前記第 2 発光領域（HK 2）を複数有し、前記変動演出において、前記表示手段の画面に表示される第 1 画像（例えば通常表示の演出図柄 70 a）と、前記第 1 画像が変化して画面に表示される第 2 画像（例えば S V 表示の演出図柄 70 a）とに変化可能であり、前記第 1 画像及び / 又は前記第 2 画像は、フレーム更新タイミングに合わせて変化可能であり、前記第 2 画像に変化する前記変動演出が行われるとき、前記第 1 発光領域と前記第 2 発光領域のうちの少なくとも 1 つとを連係して前記第 2 状態（例えば消灯）に変化する発光演出が実行可能であり、前記表示手段の画面に、前記第 1 画像と共に第 3 画像（例えば特殊図柄 T Z）を表示可能であり、前記第 1 画像を前記第 2 画像に変化したときに視認し易さを変化させる一方、前記第 1 画像および前記第 2 画像のいずれであっても、前記第 3 画像の視認し易さを変化させないように表示可能であり、前記第 1 画像から前記第 2 画像に変化するまでのフレーム数よりも、前記第 2 画像から前記第 1 画像に変化するまでのフレーム数の方が少ないことを特徴とする。

10

20

30

40

50